

新規参入者受入体制整備と栽培技術支援

令和4年度 (広域 担い手)

1 活動のねらい

- ・地域農業の担い手確保対策として、関係機関と連携し地元での就農相談会、おしま農業体験ツアーを開催し、新規参入者受け入れ体制を整備する。
- ・新規参入者から技術支援、管理技術の情報提供を求められていたため、地域係と連携し巡回指導、経営相談等を行い地域への定着を図る。

2 活動内容と結果

- ◆「おしま農業のお仕事相談会」の継続開催
○3市町が相談ブースを設置した。



→ 相談者は6名で、うち1名は後日知内町の短期農業体験へ参加し、地域の農業・生活を理解する機会に繋がった。

- 1日バイトアプリの紹介



→ 1日バイトアプリへの関心は高く、短期間でも時間があれば農業で働きたい人が多くいる、と考えられた。

- ◆「おしま農業体験ツアー」の開催

目的：地域の主要農作物における農作業を体験し、就農に向けた具体的な検討をしてもらう

これまで実施してきた就農相談会の結果、渡島管内へ新規参入を希望する道南出身者が多いと考えられた。北斗市、知内町、渡島総合振興局と連携し、トマト・にらの農作業体験ツアーを実施した。

○関係機関によるオリエンテーションと受入農家による作業指導



体験後



農家になるのはどういうことかが見えてきた。農業者を志す意欲はやや高まった

◆新規参入者経営安定・定着支援

【新規参入者実態調査結果から
わかったこと (R3 抜粋)】

- ・経営計画達成率が低い
- ・関係機関による支援を希望
(制度、技術支援、見とどけ)
- ・資金償還が不安



重点的に指導する対象者を4名選定

- ・就農2～3年程度
- ・栽培技術に不安がある
- ・栽培改善の意欲がある

○定期的な個別巡回指導



排水性の問題、液肥散布のタイミングなど物事を一緒に考える機会が増えた。
地域農業者以外の相談先のひとつとなった。

3 今後に向けて

「おしま農業のお仕事相談会」や「おしま農業体験ツアー」の開催や方法について検討する。
新規参入者への個別巡回を継続し、経営計画が達成できるよう支援する。